



高齢者が抱える生活上の小さな困りごと（電球の交換など）への支援を、住民によるボランティア活動として取り組む校（地）区社協が13校（地）区あります。令和5年6月に、既に取り組みを行っている坂ノ市、小佐井、丹生の3校区で情報交換会を開催しました。

小さな困りごと支援のきっかけ

情報交換会に参加した3校区では、自治会長や民生委員・児童委員として困りごとを聞く立場にありながらも、対応できない悔しさがあったことや、他校（地）区の活動状況を聞いて刺激を受けたこと、活動を後押しする制度ができたことなどが、活動を始めるきっかけになっています。

参加者の意見

「困りごとに対してボランティア活動をしている地域があることを知り、見守り対象者へのアンケート、既に行っている地域への視察を行いました。その後、仕組みの検討を重ね、活動をスタートしました。」
「市の補助事業である『地域お互いさま活動事業』の説明を聞き、運営面の不安を解消した上で、お助け隊を結成しました。」



情報交換会のようす

小さな困りごと支援のしくみ

活動を行っている13校（地）区では、支援を依頼する依頼者、依頼者を支援する支援者（サポーター）、依頼者と支援者をつなぐ調整役（コーディネーター）の3者で活動のしくみが作られています。坂ノ市地区でも、既に取り組みを行っていた校（地）区の仕組みを参考にしながら、それぞれの地域性を踏まえた上で、運営上のルールを作っています。

参加者の意見

「お助け隊の活動をきっかけに、地域とのつながりができるよう、意識しています。」
「どこまでの要望に応えるか、線引きが難しい。」



小さな困りごと支援のようす

あくまでも「ちょっとした困りごと」、事前に「便利屋さん」ではないことを依頼者に理解してもらうことも大切です。



電球交換



依頼された方は電球が交換できず電気スタンドの明かりで生活されていました。部屋が明るくなりとても喜ばれました！

活動日を調整することで若いサポーターさんの協力を得ることができました！

草取り・草刈り



小佐井校区お助け隊 草取りのようす

丹生校区お助け隊 電球交換のようす

小さな困りごと支援を継続するために

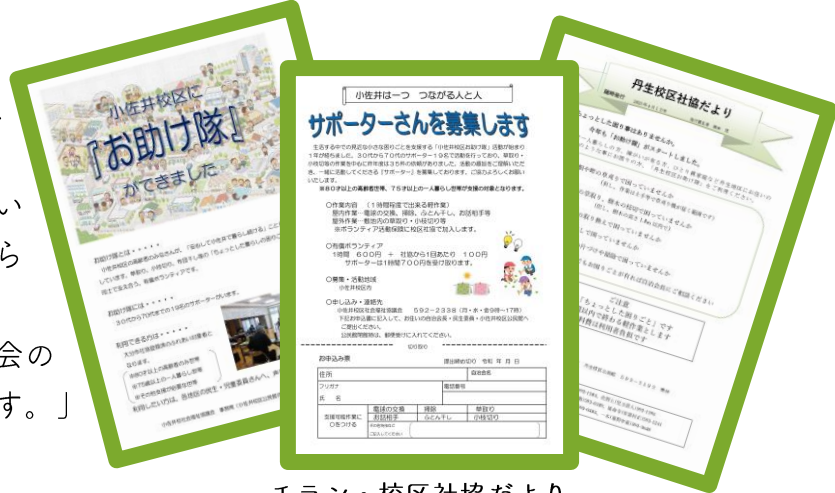
地域とのつながりが希薄になり、ご近所同士で助け合うことが段々と難しくなっています。3校区では、ご近所との新たな関係づくりや見守りの必要性を把握するツールとしても、お助け隊の活動が活かされています。情報交換会では、サポーターの確保、ニーズの把握方法、実稼働者の固定化などの問題に対して、活動を継続するために今、出来ることを話し合いました。

参加者の意見

「社協だよりやチラシを定期的に配り、活動の周知を行っています。」

「依頼者の中には、迷惑をかけたくないという考えの方もいるので、こちらから声かけするよう心がけています。」

「住民の理解と協力を得るため、自治会の会議等に参加して活動紹介をしています。」



チラシ・校区社協だより

情報交換会の感想

近隣の活動者同士による情報交換会では、地域性が似ているからこそ共感できることや、大きな会議では深く掘り下げられなかったことを、聞くことができました。

参加者の意見

「近くの校区同士だとあまり気をつかえず、発言がスムーズだと感じました。」

「近隣の活動を聞くことはとても参考になります。立ち上げの際に他校区の資料が参考になりました。」
「色々な形の会が持てると良いと思います。」



参加者の意見をまとめて活発な意見交換をお手伝いしています！